

「応援します!! あなたの農業」

地域農業の
未来を応援します!

福島県
農地中間管理機構



あぐりサポートニュース

福島県農業振興公社だより

第 6 2 号 令和 2 年 7 月

発行元 福島市中町 8 番 2 号
公益財団法人福島県農業振興公社
TEL 024-521-9834 FAX 024-521-8277

令和元年度 事業評価について

6月22日（月）に、福島市のチェンバおおまちにおいて、農地中間管理事業評価委員会（委員長：荒井聡福島大学教授）を開催しました。当日は荒井委員長をはじめ4名の委員出席のもと、令和元年度の取組みや実績、事業推進上の課題と対応策などについて、貴重なご意見をいただきました。

委員からは、目標達成に向けて、市町村等と連携しながら、重点地区での計画的活動や農地基盤整備予定地区での話し合いに参画する地域マネージャーによる現場対応力の強化等の取組により、3年連続で転貸面積が2,000haを超えたことや新規参入者、法人への転貸面積が増加していること等、地域に密着した活動が実績に結びついていると一定の評価をいただきました。

一方で、地方別実績で見ると会津と相双の2地方で借入60%・転貸66%を占めており、地方間で格差が見られることから、農地中間管理事業の強み



農地中間管理事業費評価委員会の様子

を生かしながら、他地域への推進や優良事例の見せ方の工夫等で耕作者へアプローチが必要であること、また、効率的な事業推進に向け、事務手続きの簡素化及び一元化について引き続き検討が必要であること等の意見をいただきました。

令和2年度の農地中間管理事業の取組みについては、新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため、地域の話し合い等を計画的に進めることが難しいが、関係機関と連携しながら、事業推進ができるように体制を整備すること、また、地域外・県外からの幅広い就農を促進し、関係機関と連携しながら技術面・資金面での手厚いサポート体制を充実することについて要望をいただきました。

機構としては、今回いただきました意見等を踏まえ、事業の推進に努めてまいります。



農地中間管理事業費評価委員会(委員長あいさつ)

事業の実績について

令和元年度農地中間管理事業の実績は、下表のとおり機構貸付面積2,335haとなり、3年連続貸付面積が2,000haを超える実績となりました。

令和元年度の事業推進に当たっては、「農地中間管理事業推進方針」に基づき、人・農地プランとの一体的推進や重点地区における計画的活動、更に

個別マッチングの強化を図るなど、関係機関・団体との連携を密にして事業を進めてまいりました。

これらの取組の成果が現れてきたものと考えておりますが、市町村間で取り組みに温度差もあることから、更なる推進に向けて引き続き関係機関・団体のご理解とご協力をお願いします。

令和元年度 農地中間管理事業実績（県全体）

	機構借入面積	機構貸付面積	うち新規集積面積
R1実績 (30実績対比) (R1目標対比)	1,474ha (83%) (28%)	2,335ha (113%) (44%)	719ha (77%)
30実績	1,767ha	2,070ha	930ha
R1目標	5,300ha	5,300ha	

借入

地方	面積 (ha)		割合 (%)	
	R1	H30	R1	H30
県北	99	137	7	8
県中	221	190	15	11
県南	38	93	3	5
会津	332	700	23	40
南会津	60	70	4	4
相双	551	492	37	28
いわき	173	85	12	5
県計	1,474	1,767	100	100

転貸

地方	面積 (ha)		割合 (%)	
	R1	H30	R1	H30
県北	151	111	6	5
県中	291	264	12	13
県南	95	51	4	2
会津	807	784	35	38
南会津	73	91	3	4
相双	724	676	31	33
いわき	194	93	8	4
県計	2,335	2,070	100	100

※ 割合については、四捨五入の関係で県計が一致いたしません。

新任職員の紹介

(令和2年4月1日付発令)



◇審査役

さわだ よしお
沢田 吉男 (前青年農業者等育成センター
所長)

ひと言「農地中間管理事業を推進し、担い手の育成を進め、未来に繋がる福島県農業を実現します。」



◇就農支援センター 所長

かんの まさとし
菅野 雅敏 【新規採用】

ひと言「明日の「福島県農業」を新たに担う方々への支援と絆を、関係者と連携しながら、精一杯、深めてまいります。」

— 就農支援センター —

就農支援センターに名称変更しました！

当センターは令和2年4月より「青年農業者等育成センター」から「就農支援センター」に名称を変更いたしました。業務内容については、以前と同様に、新規就農に関する相談や農業研修支援など、新たに農業を目指す方を幅広く支援してまいりますので、農業に興味のある方は、お気軽にご相談ください。

当センターでは、農業研修機関等にて研修を行う方に対し、農業次世代人材投資資金（準備型）を交付し、研修期間中の支援を行っております。

昨年度は、21名の方に資金を交付し、そのうち17名の方が今年度から新規就農者として農業をスタートされました。

就農形態別に見ますと、新たに農業経営を開始する独立・自営就農が6名、農業法人等に就農する雇用就農が8名、親の農業経営に従事する親元就農が3名となりました。

この農業次世代人材投資資金（準備型）につい

ては、昨年度、福島県農業総合センター農業短期大学校や果樹研究所などの教育機関で研修を行う方のみが対象でしたが、今年度から県が認めた先進農家や先進農家法人で研修を行う方も対象となりました。

今年度、資金の対象となる研修機関としては、

- ①福島県農業総合センター農業短期大学校
- ②福島県農業総合センター果樹研究所
- ③郡山市園芸振興センター
- ④くにもみ農業ビジネス訓練所
- ⑤県が認めた先進農家・先進農家法人等

（福島市1件、桑折町1件、三春町1件、南会津町1件、西会津町3件）

以上、11か所が認められております。

農業次世代人材投資資金（準備型）を活用し、農業研修を検討している方は、各研修機関または就農支援センターまでご連絡ください。

— 地域マネージャー便り —

福島県農地中間管理機構
伊達推進拠点

地域マネージャー さとう なおき
佐藤 直樹



農地中間管理機構伊達推進拠点（伊達市、桑折町及び国見町）地域マネージャーとして、5年目になりました。

伊達地方の農業の特徴としては、1戸当たりの経営耕地面積は県内でも小規模な方で、果樹と野菜が主力。野菜もきゅうりをはじめ、多品目栽培であり、農地の集積が中々進まない地域です。

反面、JAの諸先輩方の御努力により、農地利用円滑化事業による集積が極めて多く、農地中間管理事業への統合一体化により、事業が増加することから、JA担当者の方々と連携を密にし、スムーズな一体化に努めたい

と思います。

基盤整備については、伊達郡国見町の貝田地区が、令和3年1月に本換地となるため、長期契約に向けて取り組んでまいります。

今後、地域農業の発展に必要なことは、現在、人・農地プラン実質化に向けて、関係団体が一丸となり、農家との話し合いを行っており、確かな将来の設計図を描き、それを元に行動することだと思います。

また、管内の一等地であるのにも拘わらず、10アール未満の大昔の基盤整備地の面積がかなりあり、近い将来、担い手がいなくなることが危惧されることから、改善に向けて問題提起を行っていきたいと思います。

おわりに、本年度も、関係団体の皆様に御指導をいただきながら、農地中間管理事業を通じ、微力ながら、地域農業発展に努めたいと思いますのでよろしくお願いたします。

「農業との出会い」

～たくさんの人に支えられた就農への道のり～

喜多方市 くわな ひろゆき 桑名 洋行 (43歳)



「自分の人生で農業に関わることはないだろう」、数年前までそう考えていた私が、いまアスパラ農家としてスタートを切りました。

東京で20年間、システムエンジニアとして働いていましたが、「いつかは地方で暮らしていきたい」と考えるようになり、今から約5年前、妻と移住先を探し始めました。

県内外の様々な地域を見て回り、東京で開催される移住イベントにも参加しながら情報を集めました。情報収集を続けるうちに「移住して農家になろう」という考えが起こり、気付くと「就農するために移住する」という意識に変わっていました。

そして喜多方市の移住・就農担当職員の方と出会い、「喜多方に行き、特産のアスパラを作ればやっていけるのではないかと感じ、移住を決めました。

しかし、農業を始めると言っても、そう簡単なことではありません。農業に全く関係のないところからのスタートということもあり、様々な苦勞が待ち構えていることは覚悟していました。少なくとも農業の知識・技術を習得するための研修先を見つけなければなりません。

研修先との出会いは、喜多方市での農泊体験でした。日中の農業体験でアスパラ農家さんにお世話になったのですが、「ここでなら一流のアスパラ生産者・農業経営者になるための研修ができそう

だ」と感じ、研修生として受け入れてくださるようお願いしたところ、快いお返事をいただきました。

研修では初めて経験することばかりでしたが、あらゆるものが新鮮に感じられるものでした。中でも最も大きな学びは「常識の根拠を知り、時には疑うことの大切さ」でした。栽培方法などについて研修先の先輩達と意見を交わしながら試行錯誤するなかで、会社員時代とは違う充実感を感じることができ、そこに農業の面白さを感じました。

また研修と平行して、農地取得や資金確保、農業機械の調達など、数多くのハードルがありましたが、研修先や周辺の農家さん、市町村や農業普及所など多くの方に助けていただき、今年4月に無事農業をスタートすることができました。

来年にはハウスも完成し、本格的な収穫も始まる予定です。今後もこれまで支えていただいた全ての方々に感謝し、地域農業の担い手として努力していきたいと考えています。

また、これから喜多方市で農業を始める方々の「道しるべ」となるような農業者になれるよう頑張っていきたいと思えます。

編集後記

先日、友人たちと福島市松川町の土合館公園に紫陽花を見に行きました。ちょうど見頃で、紫陽花がたくさん咲いており、駐車場もほぼ満車状態でした。ここ数か月は友人たちと会うことも控えていたので、近場とはいえ久しぶりに友人たちと外出し、心躍る楽しい時間を過ごしました。紫陽花の名所といえば鎌倉ですが、鎌倉まで行かずとも十分楽しめる場所があると発見することもでき

ました。今年は県外へ旅行するのもなかなか厳しい状況のため、県内で楽しめるものを探してみようと思えます。
(渡辺 茜)

お問い合わせ

あて先 〒960-8681
福島市中町8番2号 福島県自治会館8階
公益財団法人福島県農業振興公社 総務企画課
TEL 024(521)9834 FAX 024(521)8277
URL <http://www.fnk.or.jp>